

へり荷揚げ品の搬入と池郷林道の調査

◇実施日 10月28日(火) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、畑林秀味、阪口雄二

梶野照雄、村吉光夫、瀧本昭太郎 7名

令和5年7月7日、電源開発にモノレール延伸のルート説明を行った際、へり荷揚げの要請をしていた。2ヶ月後の9月14日にへり荷揚げが実施されたの続き、今般10月29日にへりを飛ばすとの案内を頂いた。重量は500kgまで、長さを1.5m以内としてください。荷揚げの荷物は前日(28日)池峰のグラウンドへ持ってきてください。とのことで、準備に入った。荷揚げの荷物は木杭、鉄杭、コンクリートブロックや砂利を主体に7品目、計475kgを用意した。入念に計測し結束バンドや針金で固定して、前日に児嶋さんのトラックを借用して積み込んだ。当日午前10時、池峰に集まる。前回は「荷物をお願いします」で帰ったが、今回は荷物をフレコン詰めにしたリ、長尺物をブルーシートに包んだりする必要があった。少しお手伝いをし、ユニックに付けた重量計で測るとピッタリ500kgだった。こんなにぴったりの値は珍しいそうだ。荷物を託して新宮組は帰宅したが、梶野、村吉、瀧本の3名は明日午前9時のへり到着を待ったため行仙宿泊するが、まだ11時前なのでこの後池郷林道の状態確認を兼ねて持経宿に向かった。(記；沖崎)

【持経宿↓行仙宿】

荷物の梱包も終わり、村吉車に3名が乗って持経宿へ向かった。1時間半ほどで持経宿に着く。平治宿小屋の屋根再塗装のための塗料とうすめ液などを小屋に運び、薪ストーブの“スノコ”を取り付けた。“スノコ”はロストルと言うのが正しい名称らしい。薪を入れて火をつけてみたが、よく燃えるようだ。



持経宿に到着



ロストルを設置



塗料をデポ

瀧本さんは玄関前の落ち葉掃除、村吉さんはコーラ代金の回収を行った。昼食を済ませ戸締りを確認して持経宿を離れた。途中、丸太で組んだ擁壁に生えた木を切除する。最後に近くなつて木の隙間に挟まっていた石を切ってしまう、一気に切れ味が悪くなってしまう。残り3本ほどを残して作業を終えた。続いて深い溝ができる原因となっている沢で停車。谷に降りて太いカルバートパイプの中を覗いてみた。地面からは2mほど上なので足元に平らな岩を置いて写真を撮ってみた。中に堆積している土砂は1立方メートル位で、

人力でも十分排除できそうだ。奥が暗くてよくわからないのでライトを取りに戻った。村吉、瀧本のお二人は上流の土砂撤去を始めていた。



コーラ代金回収

雑木を切除

排水路を調査

ライトを持って谷に降り、パイプの奥を照らしてみる。大きな岩のような物で塞がれていた。上流に戻って土砂撤去の手伝いをする。30 cmほどを掘り進めたところで10 cm位の穴が開いた。穴を徐々に広げると直径5 cmくらいの丸太が5本、組み合わせた状態で出てきた。谷側から見えた岩のような物はこの丸太の影だったようだ。丸太の周りの土砂を取り除いて、穴を30 cmまで広げた。パイプに堆積している土砂は穴から30 cm以上下にある。これで沢の水の8割くらいはカルバートパイプに流れ込むだろう。次回は埋まっている丸太を切って、もう少し穴を大きくしたい。作業を終えて池峰に向かう。池峰でそれぞれの車に乗って行仙宿に向かった。登山口には村吉さんが今朝降ろしてきた240 cmの丸太が10本あり、モノ

レールに積み込んで、丸太の上にお二人を乗せて登り始めた。コジマハウスで丸太を降ろし、行仙宿に向かった。



30 cmほど掘る



貫通



荷揚げの荷物



モノレールで登る



丸太を降ろす



夕食準備

時刻は午後5時半を過ぎて、周りは暗くなっていた。村吉さんは2

0リッターのポリタンクを担いで小屋に向かった。ザックが残っているのを持ってみると軽かったので、片方のベルトを腕に通して前に持って小屋に向かった。小屋手前で村吉さんが降りてきたのでザックを渡した。小屋に着くと関東からの登山者が2名、すでにストーブにも火を入れてくれていたので、小屋内は暖かった。この二人は昨夜持経宿に泊まっていたようだ。

非常食のご飯を温め、夕食を摂る。村吉さんは自家栽培の枝豆を茹でてくれた。午後8時過ぎに発電機を停めて就寝した。一人、管理棟で寝たが0時過ぎ寒くて目が覚め、毛布を一枚追加した。

(記；梶野)

行動タイム

池峰 10:50→12:05 持経宿 13:27→13:36 丸太擁壁 14:35→14:49
カルバート・パイプ 15:30→16:15 池峰→補給路登山口 17:00
→17:20 コヤシハウス→17:57 行仙宿